

## 新たな二次救急医療体制の稼働状況について

### 1 新たな二次救急医療体制の概要

- (1) 輪番制病院をこれまでの3病院から5病院に拡大
- (2) 救急告示医療機関（8病院・3診療所）を協力病院等に位置づけ、輪番制病院を支える体制を構築
- (3) 各救急医療機関に専用電話を配置し、連絡体制を確保するなど、救急医療機関の相互支援体制を確立
- (4) 各救急医療機関の応需情報を統一し、全ての救急医療機関・救急隊等が情報を共有化するなど、救急搬送の円滑化を図るためのルールづくり

### 2 稼働後の取組状況

平成21年	6月	救急医療機関と市で「二次救急医療体制の運営に関する協定書」を締結し、新たな二次救急医療体制を稼働
	8月	第7回宇都宮市救急医療対策連絡協議会 ・ 稼働状況の評価方法 ・ 救急医療機関等の問題事例の共有化
	11月	第8回宇都宮市救急医療対策連絡協議会 ・ 9月までの稼働状況の中間確認
平成22年	2月	第5回宇都宮市救急医療対策連絡協議会輪番制病院分科会 ・ 12月までの稼働状況の評価 ・ 平成22年度輪番体制の確認 第9回宇都宮市救急医療対策連絡協議会 ・ 12月までの稼働状況の評価・検証 ・ 平成22年度の運営方針の確認

### 3 稼働状況

#### (1) 救急搬送の状況（24時間）

救急搬送における搬送時間が短縮化されるなど、救急搬送の円滑化が図られてきている。

ア 患者収容（覚知から病院収容）までの所要時間

【稼働前：1～5月】 34分18秒 ⇒ 【稼働後：6～12月】 33分12秒  
〔1分6秒短縮〕

イ 救急隊から救急医療機関への平均問い合わせ回数

【稼働前：1～5月】 1.64回 ⇒ 【稼働後：6～12月】 1.43回  
〔0.21回減少〕

## (2) 夜間休日における救急搬送患者の受け入れ状況

輪番制病院の拡大や、救急医療機関の相互の連携・協力体制の構築などにより、輪番制病院の負担軽減と救急搬送患者の安定的な受け入れの向上が図られている。

ア 市内救急医療機関における救急搬送患者受け入れ率

【稼働前：1～5月】 85.7% ⇒ 【稼働後：6～12月】 89.2%  
〔3.5ポイント増加〕

※ 稼働後において救急搬送患者 5,196人のうち、市内救急医療機関で  
4,633人を受け入れ

〔 救急医療機関別の受け入れ率 〕	◆協力病院等
	【稼働前：1～5月】 20.8% ⇒ 【稼働後：6～12月】 24.5% 〔3.7ポイント増加〕
	◆輪番制病院
	【稼働前：1～5月】 64.9% ⇒ 【稼働後：6～12月】 64.7% 〔0.2ポイント減少〕

イ 相互支援による受け入れ

- ・ 輪番制病院が当番日以外の日に関の当番輪番制病院から受け入れた患者数 4人
- ・ 協力病院等が輪番制病院から受け入れた患者数 15人

## 4 評価

- ・ 救急搬送において、救急隊から救急医療機関への問い合わせ回数や搬送時間の短縮が図られてきているとともに、救急医療機関での患者受け入れ率が向上するなど、救急医療機関の協力・連携により、救急患者の安定的な受け入れの向上が図られている。
- ・ このことから、二次救急医療体制の強化が図られ、市民の日常生活の安全安心の確保に寄与したものと考えられる。

## 5 今後の対応

宇都宮市救急医療対策連絡協議会において、継続的に評価・検証・見直しを行い、より実効性のある体制となるよう取り組んでいく。